

ラテン語が読めなかった男達

——中世英国における英語の本の意義——

和田 葉子

N. R. Ker の最も優れた目録の一つ *Medieval Libraries of Great Britain*¹⁾ には、中世の英国の図書館に所蔵されていたことが確認できる約6000の本と、それらのあった約500の図書館が記載されている。中世の図書館は、修道院、大聖堂、教会等の中に存在したため、²⁾ この目録に掲載されているすべての写本は、ほとんどラテン語で書かれていたことは言うまでもない。そのうち、中英語で書かれた作品を含む写本は全体のわずか2%に過ぎない。これは非常に少ない割合に思えるが、実数にすると全部で、120にのぼる。ラテン語の本で占められている中世の図書館に、何故、120もの英語の写本があったのだろうか。一体誰が読んでいたのだろうか。

すぐ、思い浮かぶ答えは、「女性」であろう。常に、英語は中世後期において女性を教化するための言語であったと思われてきた。彼女自身、女性である Eileen Power でさえ、当時、尼僧がいかにラテン語を理解しなかったかを、はっきり述べている³⁾のだから、そういう考えが定着してしまったのも無理はないかもしれない。

この偏見についての、最近の例を一つ挙げてみたい。英国に唯一、設立された Bridget 会の Syon 修道院は、double monastery つまり、男女の僧が暮らしていた。もちろん彼等は別の建物に別れて生活していて、図書館も男性用と女性用の二つが存在したことが確認されている。⁴⁾ところが、残念なことに、現在残っているこの修道院の唯一の図書目録は、16世紀の男性用図書館のカタログ⁵⁾なのである。Christopher de Hamel は Syon 修道院にあったと考えられる現存する写本を、男性用図書館の目録に掲載されている本と照合し、さらに、照合で

1) N. R. Ker, *Medieval Libraries of Great Britain. A List of Surviving Books*, 2nd edn (London, 1964); N. R. Ker and Andrew G. Watson, *Medieval Libraries of Great Britain. Supplement to the Second Edition* (London, 1987).

2) F. Wormald and C. E. Wright (edd.), *The English Library before 1700* (London, 1958).

3) Eileen Power, *Medieval English Nunneries c. 1275 to 1535* (Cambridge, 1922), p. 246.

4) Mary Bateson (ed.), *Catalogue of the Library of Syon Monastery, Isleworth* (Cambridge, 1898), p. xiii; London, British Library, MS. Additional 22285, fo. 17v.

5) *Ibid.* この写本は現在 Arundel Castle の the Duke of Norfolk の図書館に所蔵されている。Christopher de Hamel, *Syon Abbey: The Library of the Bridgettine Nuns and their Peregrinations after the Reformation* (London, 1991), p. 3 参照。

きなかったものについては、どちらの図書館にあったのかを推測することによって、当時の男性用・女性用、二つの図書館の蔵書をできる限り再現しようとした。⁶⁾ De Hamel は女性用か男性用かを判断する際、決定的な要因がない限り、ほとんど全てのラテン語で書かれた写本は、男性用図書館に所蔵されていたとし、英語の写本であれば、大抵女性用だったと考えているように思われる。⁷⁾ そういう判断は正しいのであろうか。これについては、後で具体的に触れたいと思う。

私は、中英語の写本の読者層を調べるために、Ker のカタログを再編成してみた。つまり、1100年から1500年の間に英語で書かれた作品を含む写本だけをピックアップして、かつて、所蔵されていたことが確認されている中世の図書館別に、写本の数の多い順に並べたのが、別表 (pp. 10-18) である。一番左にある数字が、各図書館に所蔵されている写本数の順位である。複数の図書館に同じ数の中英語の写本が確認されている場合は、地名のアルファベット順に並び、同じ順位がつけられている。この番号についている星印は、尼僧のいた修道院を表わし、次にある丸括弧に入っている数字は、各図書館につけた通し番号である。これによって、少なくとも、77の図書館に英語の写本があったことがわかる。一番右の角括弧の中の数字は、その図書館にあったと推測される中英語の写本の数である。次の行には、各写本の現在の場所と蔵書番号、それに含まれている主な作品、筆写された推定時期が記されている。疑問符は Ker が所蔵に関して疑問の余地ありと考える写本を示している。なお、このリストに含まれている情報は、すべて Ker と Watson の *Medieval Libraries* に含まれるものだけに限定した。

さて、このリストによると、星印は全部で17、つまり、女性のいた修道院は17箇所、残りの男子修道院60箇所にも、中英語の写本が所蔵されていたことがわかる。Ker の資料に基づく限りにおいて、英語の写本は、尼僧院より、ずっと多くの男性の図書館に存在していたと言える。

多くの中英語の写本が確認されている上位の図書館を眺めてみると、どのような所に英語の写本が多くあったのかという点について、その特徴が非常によくでてるように思われる。リストの上位7つの図書館には、中英語写本が3つ以上確認されているが、通し番号(1), (3), (4) は星印のついた修道女のいた図書館であり、(2), (5), (7)はいずれも Charterhouse である。つまり、Ker の資料を元にする限りにおいては、尼僧院とカルトゥジオ会修道会に、英語の写本が多くあったと思われる。それぞれについて歴史的な裏付けをしながら、読書層を考えてゆきたいと思う。

6) *Ibid.*

7) 本論 pp. 55-56 参照。

最初に、女子修道院について考えてみよう。上位にランクされている3つの尼僧院はいずれも、大規模で中世にはたいへん栄えた名門女子修道院であった。尼僧教育に熱心だったことも3者に共通している。第一位ランクされている Syon には、先に述べたように、男女の僧が暮らしていた。この修道院は Henry V によって1415年に創設され、上流階級の未婚の女性や寡婦が集まった。⁸⁾ この会派の開祖はスウェーデンの女性、St Bridget⁹⁾である。彼女は、苦勞してラテン語の聖書を母語のスウェーデン語に翻訳したと言われている。英国における Bridget 会の修道院は、Syon 一箇所だけで、Syon の尼僧のために英語で書かれた *The Mirror of Our Lady* は、その会則であるとともに、礼拝に使われるラテン語の文句の意味を説明したり、ラテン語でミサに参加する時の、具体的で実用的な指導書にもなっている。¹⁰⁾ つまり、尼僧達がラテン語で礼拝に参加できるようになることを目指した教育的な本であった。リストからもわかるように、Syon に所蔵されていたことが確認されている13の写本に含まれている作品の中に、*The Mirror of Our Lady* が2写本あるが、その他 Walter Hilton の作品に混じって、「尼僧の掟」と同様、「男子修道僧の掟」¹¹⁾も含まれている。後者も、もちろん英語だが、男性用図書館の蔵書であったことに疑問の余地はなからう。Syon の男性の誰かが、ラテン語が読めなかったか、あるいはラテン語の能力が充分でないために、英語で自分達の会則を読んでいたことがわかる。前述の現存する Syon の唯一のカタログである16世紀の男性用図書館の目録には、Walter Hilton をはじめとする英語の宗教作品や聖書からの翻訳本なども記載され、英語で書かれた作品は全部で26に上る。つまり、間違いなく Syon の男子修道士の中に英語で読むことを必要とした者がいたのである。

さて、De Hamel は、Syon 修道院の図書館目録の再現にあたって、その修道院にあったことが知られている London, British Library, MS. Harley 2387 を、‘Probably women’s library’ が所蔵していたと判断しているが、明らかな証拠を提示していない。私には、この写本に含まれる作品が大きな決定要因の1つであったのではないかと思われる。というのは、そこに収録されているのは、Walter Hilton の *The Scale of Perfection* であり、しかも写本には彩飾が施されているからである。¹²⁾ しかし、私達は、Oxford, Bodleian Library, MS.

8) John Henry Blunt, *Myroure of oure Ladye*, EETS extra series 19 (London, 1873), pp. xi-xix; David Knowles, *The Religious Orders in England*, III (London, 1959), pp. 220-1; David Knowles and R. Neville Hadcock, *Medieval Religious Houses, England and Wales* (2nd edn, London, 1971), p. 202; Roy Midmer, *English Mediaeval Monasteries (1066-1540), A Summary* (London, 1979), pp. 300-1; Power, *Medieval English Nunneries*, pp. 2-3.

9) Blunt, *Myroure*, pp. xvii-lix; Roger Ellis, *The Liber Celestis of St Bridget of Sweden*, EETS o. s. 291 (Oxford, 1987).

10) Blunt, *Myroure*, pp. vii-xlvi.

11) De Hamel, *Syon Abbey*, p. 116, no. 17. 現在 London, St Paul’s Cathedral, MS. 5.

12) *Ibid.*, p. 120, no. 52. Cf. Ker, *Medieval Libraries*, p. 309 からも、どちらの図書館に遺贈したかは不明。

Rawlinson C. 86 (S. C. 11951)¹³⁾に示されるようなケースもあることを忘れてはならない。即ち、この写本には、John Lydgate の著作と考えられる *Lamentation of the Virgin over the Sinfulness of Man, Against the Forked Head-Dresses of Women*, などに加えて、*The Weddyng of Syr Gawen and Dame Ragnell for Helpyng of Kyng Arthoure* や、Chaucer の *The Clerk's Tale, The Prioress's Tale, The Legend of Good Women* の Dido の物語を含んでいるが、この写本には、Bermondsey の修道士 William of Aylesbury の inscription が見られる。女性の信者からの贈り物だったかもしれないという推測も可能だが、この男性が所有していたことに間違いはないのである。

第三位の Dartford 女子修道院は¹⁴⁾Edward I の妃 Eleanor によって発案され、彼等の息子である Edward II が計画し、やっと1349年 Edward III によって修道院の建物が建設されるに至った。この尼僧院も、教育に熱心なことでたいへん有名であった。例えば、修道女とそこに暮らす貴族女性達のために外部からラテン語と文法の教師を雇い、修道院の面接室で指導することを主教が許可したという記録が残っている。¹⁵⁾

通し番号(4)の Barking 女子修道院は、¹⁶⁾ 666年頃、St Erkenwald (d. 693) によって設立された。Erkenwald は王家の出身であったといわれ、非常に裕福であった。同じ頃、Chertsey にも修道院を創設している。彼の姉 Ethelburga (d. 675)¹⁷⁾は、Barking の初代の修道院長だっただけでなく、この修道院を所有していたと考えられている。Barking は中世後期において非常に栄え、多くの貴族の婦人が尼僧として生活する場所であった。リストで、第一位にランクされていた Syon との結びつきもたいへん強く、Syon の第一代目の修道院長は、Barking の尼僧であった。¹⁸⁾

英国では、1408年から1526年まで、英語で書かれた聖書に関する本を読んではならない時期があったが、王室は除外されていた。¹⁹⁾ アングロ・サクソン時代から、多くの女子修道院が

13) De Hamel, *Syon Abbey*, p. xx. F. Madan, *apud* R. W. Hunt *et al.*, *A Summary Catalogue of Western Manuscripts in the Bodleian Library at Oxford*, III (Oxford, 1895), p. 207 参照。

14) Knowles and Hadcock, *Medieval Religious Houses*, pp. 216 and 285; Midmer, *English Mediaeval Monasteries*, p. 125.

15) William Page (ed.), *The Victoria History of the Counties of England, Kent*, II (London, 1926), pp. 181-9.

16) Knowles and Hadcock, *Medieval Religious Houses*, p. 256; Midmer, *English Mediaeval Monasteries*, p. 56.

17) David Hugh Farmer, *The Oxford Dictionary of Saints* (2nd edn, Oxford, 1987), pp 144 and 147.

18) Margaret Deanesly, *The Lollard Bible and Other Medieval Biblical Versions* (London, 1920), p. 336; Knowles and Hadcock, *Medieval Religious Houses*, p. 285; William Page and J. Horace Round (edd.), *The Victoria History of the Counties of England, Essex*, II (London, 1907), p. 115.

19) Deanesly, *The Lollard Bible*, p. 319. Henry VI と Henry VII は英語の聖書を所有していたことが知られている。Ibid., p. 335 参照。

王室関係者によって設立され、保護されてきた伝統が中世後期にも続いていたので、今挙げたような大きな尼僧院では、英語で聖書関係の本を読む許可が下り易かったと思われる。先に述べた Syon の *The Mirror of Our Lady* にも、それが許可を得て英語で書かれた本であることが2度にわたって記述されている。²⁰⁾ Margaret Deanesly は、禁止されていた時期に聖書関係の英語の本をおおびらに読んでいたのは尼僧だけだったと述べているほどである。²¹⁾

男性である修道士には、やっかいな異端者として活動する可能性を出来るだけ少なくするため、聖書に関する本を英語で読んだり書いたりする認可は下り難かったと思われる。それ以上に、男はつらいよ、という側面があったであろう。つまり、修道士の仕事は、ラテン語で祈り、読み、書くことであったので、彼等は、修道士であれば、建て前として、当然ラテン語に通じているはずであった。自分の部屋に英語の本を置いていた可能性は充分にあるだろうが、修道院で公に読む書物として存在するのは難しかっただろうと思われる。

ところが、リストの上位ベストセブンには、3つの Charterhouse つまり、カルトゥジオ会の修道院がランクされている。この修道会は厳格なことで、有名であり、女性を一人といえども入会させることはなかった。また、極力、メンバーを増やさぬようにもした。²²⁾ 彼等は集団が大きくなると、理想的な活動ができなくなると考えたのである。その排他主義は徹底しており、真剣に修業を積み、神の道を究めたい熱意のある選ばれた者にしか教義の伝授は行われなかった。彼等は、皆、窮屈な独居房に暮らしていた。一体、なぜこんなところに英語の写本があったのだろうか。

カルトゥジオ会の修道院にどんな英語の写本があったのか、もう一度目を通してみたいと思う。リストの通し番号(2)の London,²³⁾ (5)の Sheen,²⁴⁾ (7)の Mount Grace の Charterhouse²⁵⁾を検討してみよう。London と Mount Grace にあったカルトゥジオ会の修道院が *The Cloud of Unknowing* の写本を所有している。この作品の中で、教義を真の修業者以外のものに伝授するべからず、という排他主義を明言している²⁶⁾など、その内容もさることな

20) Blunt, *Myroure*, pp. 3 and 71.

21) Deanesly, *The Lollard Bible*, pp. 320 and 337.

22) David Knowles, *The Monastic Order in England* (1st edn, Cambridge, 1940), pp. 375-91; C. H. Lawrence, *Medieval Monasticism* (2nd edn, London, 1989), p. 163; Margaret Thompson, *The Carthusian Order in England* (London, 1930).

23) *Ibid.*, 167-98.

24) *Ibid.*, pp. 238-46.

25) *Ibid.*, pp. 229-38.

26) Prologue と終章の前の Chapter 74 で同様に警告している。誤って74章にも同じことが筆写されたとする説もあるが、作者が最初と最後に2重に明言しておきたかったとも考えられよう。この排他主義はカルトゥジオ修道院の会員数を最小限に抑えてきた基本精神と一致する。Phyllis Hodgson (ed.), *The Cloud of Unknowing and the Book of Privy Counselling*, EETS o. s. 218 (London, 1944), pp. 1-3 and 129-30 参照。

がら、現存する多くの写本にカルトゥジオ会に関係する形跡があることから、²⁷⁾ 作者はカルトゥジオ会修道士で、最初はこの修道会のメンバーの間でのみ読まれていたのではないと思われる。London の Charterhouse にあった *The Mirror of Simple Souls* も、当初の伝播がカルトゥジオ会修道士の間だけに限られていたことが Sargent によって明らかにされている。²⁸⁾

周知の通り、*The Cloud of Unknowing* の作者はその作品の中で、24歳の若い修業僧に呼びかけている。²⁹⁾ 彼は、まだ修道士になる誓いを立てていない若い novice つまり見習い僧であり、ラテン語がまだ十分に読めなかったのだ。David Knowles によると、13世紀には、18歳以上でなければ、見習い僧として受け入れが許可されず、修業の後、正規の修道士になるためには、非常に厳しいラテン語の暗唱試験に合格しなければならなかった。暗唱の必要があったのは、明りのなかった、この時代、朝夕の暗闇の中でミサが行われたためだったと言う。しかし、14世紀の初頭になると、明りが導入され、ミサの最中に、本を見ることができるようになったので、暗唱の必要が薄れ、その結果、正規の修道士になるための試験の基準が急激に緩んでしまった。³⁰⁾ ミサで唱えるラテン語の意味を理解する修道士の数が、次第に減少してしまっただけの原因がこの辺にも、あると思われる。

正規の修道士にラテン語の未熟な者がいたことは、Margaret Deanesly によっても指摘されている。即ち、黒死病の流行以降、ラテン語を理解しない多くの者も、修道士になったことは広く知られているが、³¹⁾ すでに13世紀から、修道会の戒律には英語の解説をつけるべきであるという指示が記録に残っている。³²⁾ 先に見た Syon の修道院にあった英語による男子修道士のための「戒律」も、見習い僧だけではなく正規の修道士によっても利用されていた可能性が十分ありそうである。³³⁾

27) London, British Library, MS. Harley 2373; Oxford, Bodleian Library, MS. Douce 262 (s.c. 21836); Parkminster (Sussex), St Hugh's Charterhouse, MS. D. 176; Cambridge, Pembroke College, MS. 221; London, British Library, MS. Harley 959 の各写本は、何らかの形で、Charterhouse と関係していたことが明らかである。詳しくは和田葉子「*The Cloud of Unknowing* の写本が語る作者と読者層」*Sententiae* (京都1995年), pp. 235-40 参照。

28) Michael Sargent, 'The transmission by the English Carthusians of some late medieval spiritual writings', *Journal of Ecclesiastical History* 27 (1976), pp. 225-40, at 238-9.

29) Chapter four. Hodgson (ed.), *The Cloud*, p. 20 参照。

30) David Knowles, *The Religious Orders in England*, I (Cambridge, 1948), pp. 285-6.

31) Deanesly, *The Lollard Bible*, p. 172.

32) *Ibid.* さらに Gerald of Wales が1200年頃、ラテン語を全く解さない聖職者に言及していることも付け加えておきたい。例えば、*Gemma Ecclesiastica* (c. 1197) には、ある聖職者が司教に200の卵 (*oua*) を差し上げる、というつもりだったのに、誤って200の羊 (*oues*) と言ってしまったため、大損をした話が記されている。

33) p. 55 参照。

また、リストから、London のカルトゥジオ修道院には、英語の聖書さえ所蔵されていたこともわかる。これは、かつて Henry VI (1422—61, 1470—71) が所有していた聖書である。³⁴⁾ Walter Hilton の作品を含む英語の写本も London と Sheen にある。つまり修道士が読める場所にあったのである。必要な者には、英語を使った教化を半ば公然と行っていたのかもしれない。ところで、カルトゥジオ会の各修道院の図書館の間には本の相互利用らしきものが成立していたと考えられる。というのは、出張等で修道院間を移動する修道士達によって、本が、各地の Charterhouse に運ばれている記録が多く残っているからである。³⁵⁾ London のカルトゥジオ会の図書館は、その中枢になっていたようで、本の利用が活発に行われていたことが知られている。写本を筆写するための exemplar になる本も注文によって貸し出されたことであろう。何故なら、カルトゥジオ会では、新たに「著述する」というより、製本したり、「筆写する」活動が中心だったからである。³⁶⁾ 彼等は、徹底した隠遁生活を送っていたので、書物を通じてのみ外部の人々に神の言葉を伝えることが出来ると考えていたのである。そして、本を作る作業が、厳しい瞑想生活の中での気晴しにもなっていたと言われている。³⁷⁾ つまり、彼等は、修業生活や教義の伝授については排他的であったが、本の生産に関しては、外に開かれていたと言えよう。リストにもある Sheen と Mount Grace の修道院にあった *The Mirror of Life of Christ* は周知の如く、Mount Grace の prior であった Nicholas Love による翻訳作品で、³⁸⁾ 1410年カンタベリー大司教 Thomas Arundel によって英訳が許可されている。この作品は広い読者層の人々に読まれ、人気を博したが、Arundel がこの時期 Mount Grace にかなり好意的に助成金等も与えていたことが知られていること³⁹⁾などから推測すると、恐らく、外部のマーケットを考えた上で、大司教とのコネを利用し、最初からベストセラーを狙った翻訳だったのかもしれない。つまり、カルトゥジオ会が本の生産に勤しんだ、その本音は、経済を支えるための手段だったのではないか。それを証拠づけるのは、A. I. Doyle の主張する、現存する *The Mirror of Life of Christ* を含む写本のもつ画一性である。そこから Doyle は、これらの写本が、London もしくは Canterbury などの大都市で大量生産されたのだらうと推測している。⁴⁰⁾ もし、本来、外部向けの製品であったとしても、カルトゥジ

34) Deanesly, *The Lollard Bible*, pp. 261, 263, 331, and 335.

35) Thompson, *The Carthusian Order*, pp. 313-34.

36) *Ibid.*, pp. 335-6.

37) Lawrence, *Medieval Monasticism*, pp. 162-3.

38) Michael G. Sargent (ed.), *Nicholas Love's Mirror of the Blessed Life of Jesus Christ: A Critical Edition Based on Cambridge University Additional MSS 6578 and 6686* (New York, 1992).

39) Deanesly, *The Lollard Bible*, pp. 321-6; Thompson, *The Carthusian Order*, pp. 339-40.

40) A. I. Doyle, 'A survey of the origins and circulation of theological writings in English in the

オ会 Mount Grace 修道院から「出版」された本が、彼等自身の図書館に入ることには不思議はない。当然、修道院のメンバーも読んだことであろう。

ところで、修道院には、修道士の他に、lay brothers と呼ばれる人々がいた。彼等は、肉体労働だけをするために、食事と住居をあてがわれ、そこに生活していた。Lay brothers のために英語の本が使われていた可能性はなかったのだろうか。この疑問を解くために、主な修道会の当時の会則を調査した結果、彼等はおそらく本など読んでいなかったことがわかった。というのは、彼等は、どの会派においても正規の修道士とはまったく別の生活を営んでおり、知的活動からは、完全に切り離されていたのである。驚くべきことに、ドミニコ会では、lay brothers は、いかなる本であっても、所有することを一切禁じられていた。英語さえ読めない人も多かったのであるが、文字を誰かに教えてもらうことも、独学することさえも許されず、それに違反すると、重い罰が課せられた。彼らがミサに参加する機会がまれにあっても、回廊の外に立って聞くだけしか許されなかった。⁴¹⁾ 従って、英語の本が彼等の教育に使用されたとは考えられない。

以上のことから、修道院において、英語で書かれた写本は、これまで常に強調されてきたように、主に女性が読むためにのみ存在していたのではなく、男性、即ち、見習い僧や、ラテン語の力が不十分な修道士によっても読まれていたことが考えられる。

最後に、ラテン語が読めなかった男達の具体例による証拠を2つ挙げて、この小論を終えた

14th, 15th, and 16th centuries with special consideration of the part of the clergy therein', 2 vols. (unpublished Ph. D. dissertation, University of Cambridge, 1953), I, p. 143.

41) ドミニコ修道会の *Constitutiones* の最後に、'Psalteria non habeant, nec alios libellos.' とある。G. R. Galbraith, *The Constitution of the Dominican Order 1216 to 1360* (Manchester, 1925), p. 253 参照。Lay brothers は肉体労働のためにのみ雇われたのであって、修道院では全く異なった「階級」にあった。ほとんどの修道会は彼等を教育することについては、最小限の *Pater Noster* を覚えさせること以外、まったく関心がなかった。14世紀前半の 'Canterbury Benedictine Customary' では、ラテン語の知識のまったくない者にも簡単なラテン語の祈りをいくつか暗唱できることが望ましいと考えていたようであるが、もし、出来なければ、*Pater Noster* を何回か繰り返すことで代用した。カルトゥジオ修道会の場合は、正規の修道院と lay brothers は別のコミュニティーに住み、別の教会でそれぞれ礼拝をしていた。彼等の礼拝は英語で行われたであろう。Lay brothers が、まれに、正規の修道士の礼拝に出席したとしても、口を開くことは一切出来ず、傍聴することしか、許されなかった。また、葬式の場合、ラテン語の出来ない lay brothers は、*Pater Noster* を300回唱えねばならなかった。ちなみに、時代は下るが、London, British Library, MS. Additional 17301 には、16世紀のカルトゥジオ修道会の lay brothers のための会則が記されており、その第71章に、「いかなる国のカルトゥジオ修道士も、少なくとも一度は、自国語で、その会則を読まねばならない」とあるのが興味深い。この時期、カルトゥジオ会は、解散に追い込まれていたが、修道僧と lay brothers との分離はなお続いていた。シトー会は、修道僧が学問に専念できるように、彼等に代わって、彼等のために、肉体労働だけをする者を農民の中から募り、修道院の農場に住ませ、働かせた。13世紀になると、人口増加により、生活が苦しくなった農民達が、lay brothers になるため、進んで修道院に入ってきた。シトー会は彼等に肉体労働は精神的重要性をもつと教えた。ここでも、彼等は、短いラテン語の祈りを暗唱できるだけでよかった。

いと思う。London, British Library, MS. Cotton Titus D. xviii に収録されている *Ancrene Wisse* のテキストは男性版にしようとした形跡が見られる。⁴²⁾ 元来、尼僧のために書かれた *Chastising of God's Children* も Cambridge, Magdalene College, MS. Pepys 2125 の中では、すっかり書き換えられて男子の修道院で使用するためのテキストに生まれ変わっている。⁴³⁾ これらのいわば性転換の例は、男子修道院にも英語による指導書や教化のための書物が必要であったことを明らかに物語っている。⁴⁴⁾

42) Frances Mack and A. Zettersten (edd.), *The English Text of the Ancrene Riwele edited from Cotton MS. Titus D. XVIII, together with the Lanhydrock Fragment, Bodleian MS. Eng. th. c. 70, EETS, o. s. 252* (London, 1963); Thomas Smith, *Catalogue of the Manuscripts in the Cottonian Library 1696*, edited by C. G. C. Tite (Cambridge, 1984), p. 129.

43) Joyce Bazire and Eric Colledge (edd.), *The Chastising of God's Children and the Treatise of Perfection of the Sons of God* (Oxford, 1957).

44) この論文は1994年12月4日、日本中世英語英文学会第10回全国大会での発表をもとにした。

- * 4 (4) BARKING, Essex. Abbey of B. V. M. and St Ethelburga, of Ben. nuns [4]
 Beeligh Abbey, Miss C. Foyle (*Mirror of Life of Christ*) xv *in.*
 London, British Library, MS. Additional 10596 (Tobie, etc.) xv
 (?) Nijmegen, University Library, MS. 194 (Preces, etc.) xv
 Oxford, Bodleian Library, MS. Bodley 923 (*S. C.* 2770)
 (*The Cleansing of Mannes Soule*) xiv
- 4 (5) SHEEN, Surrey. Charterhouse of Jesus of Bethlehem [4]
 Cambridge, University Library, MS. Gg. 1. 6 (1401) (*Speculum Deuotorum*) xv
 Cambridge, Trinity College, MS. B. 15. 18 (354) (W. Hilton) xv
 Glasgow, University Library, MS. Hunter 77 (*Mirror of Life of Christ*) 1474-75
 Oxford, Bodleian Library, MS. Rawlinson C. 57 (*S. C.* 11923)
 (*Chastising of God's Children*) xv
- 4 (6) WORCESTER. Ben. cathedral priory of B. V. M. [4]
 Cambridge, Corpus Christi College, MS. 265 (*Penitientiale*, etc.) xi-xii
 Oxford, Bodleian Library, MS. Hatton 76 (*S. C.* 4125)
 (Gregory's *Dialogues*, etc.) xi-xii
 Oxford, Bodleian Library, MS. Hatton 116 (*S. C.* 5136) (Homilies) xii
 Worcester, Cathedral Library, MS. F. 10 (*Sermones*) xv
- 5 (7) MOUNT GRACE (in East Harlsey), Yorkshire. Charterhouse of
 the Assumption of the B. V. M. [3]
 Cambridge, University Library, MS. Additional 6578
 (*Mirror of Life of Christ*) xv
 London, British Library, MS. Harley 2373 (*Cloud of Unknowing*, etc.) xv
 Mayfield, Capt. M. Butler-Bowden (Margery Kempe) xv
- * 6 (8) AMESBURY, Wiltshire. Priory (cell of Fontevrault) and later abbey of
 B. V. M. and St Melor, or Ben. nuns. [2]
 London, British Library, MS. Additional 18632 (J. Lydgate, etc.) xv
 (?) Oxford, Bodleian Library, MS. Additional A. 42 (*S. C.* 30149)
 (Exhortation to nuns) xv *ex.*
- 6 (9) BATTLE, Sussex. Ben. abbey of St Martin [2]
 Chicago (IL.), University of Chicago Library, MS. 254 (*Brut*) xv *med.*
 London, British Library, MS. Sloane 4031 (J. Lydgate) xv

- 6 (10) CANTERBURY, Kent. Ben. cathedral priory of Holy Trinity or
Christ Church [2]
London, British Library, MS. Cotton Galba A. xix
(Proverbs of Alfred) xiii *in.*
London, British Library, MS. Royal 1. A. xiv (Gospels) xii *in.*
- * 6 (11) DENNY, Cambridgeshire. Abbey of St James and St Leonard,
of Franciscan nuns [2]
Cambridge, University Library, MS. Additional 8335
(*Northern Homilies*) xv
Oxford, Bodleian Library, MS. Hatton 18 (*S. C.* 4109) (W. de Nassington) xv
- 6 (12) DUNSTABLE, Bedfordshire. Aug. Priory of St Peter [2]
(?) Cambridge, University Library, MS. Ff. 6. 55 (1393) (*Pore Caitiff*, etc.) xv
Manchester, Chetham's Library, MS. 6709 (Lydgate) 1490
- 6 (13) LONDON, Aug. priory of Holy Trinity, Aldgate [2]
London, British Library, MS. Additional 10053
(*Speculum Religiosorum*, etc.) xv
San Marino (CA), Huntington Library, MS. HM 112 (W. Hilton) xv *med.*
- 6 (14) LONDON, Aug. priory of St Bartholomew, Smithfield [2]
London, British Library, MS. Cotton Vespasian B. ix
(*Liber fundationis prioratus*) xv
London, British Library, MS. Royal 17. D. xxi (*Brut*) xv
- * 6 (15) LONDON, Abbey of B. V. M. and St Francis, without Aldgate,
of Franciscan nuns [2]
Cambridge, Trinity College, MS. B. 14. 15 (301)
(*The Doctrine of the Heart*) xv *in.*
(?) Oxford, Bodleian Library, MS. Bodley 585 (*S. C.* 2357)
(Rule for minoresses) xv
- 6 (16) NORWICH, Ben. cathedral priory of Holy Trinity [2]
Cambridge, Corpus Christi College, MS. 278 (Psalter) xiv *in.*
New York, Columbia University Library, MS. Plimpton 269
(New Testament) xv

- 6 (17) ST ALBANS, Hertfordshire. Ben. abbey of St Alban [2]
 London, British Library, MS. Egerton 1982 (J. Mandeville) xv
 Oxford, Bodleian Library, MS. Bodley 467 (S. C. 2487) (R. Rolle) xv
- * 6 (18) SHAFTESBURY, Dorset. Abbey of B. V. M. and St Edward of Ben. nuns [2]
 Cambridge, University Library, MS. li. 6. 40 (1919) (*Feruor Amoris*, etc.) xv
 (?) London, British Library, MS. Additional 11748 (W. Hilton, etc.) xv
- 6 (19) SOUTHWICK, Hampshire. Aug. priory of B. V. M. [2]
 Cambridge, Corpus Christi College, MS. 145 (Legendary) xiv *in.*
 London, British Library, MS. Cotton Vitellius A. xv (Augustine) xii
- * 7 (20) ANKERWYKE, Buckinghamshire. Ben. nunnery of St Mary Magdalen [1]
 Cambridge, Gonville and Caius College, MS. 390/610
 (*Horologium sapientie*, etc.) xv
- 7 (21) ASHRIDGE, Buckinghamshire. House of Bonshommes of B. V. M.
 (and of the Holy Blood) [1]
 Oxford, Bodleian Library, MS. Bodley 415 (S. C. 2313) (*Handling Synne*) xv
- 7 (22) BEAUVALE (Gresley, *de Pulchra Ualle*), Nottinghamshire.
 Charterhouse of Holy Trinity [1]
 Oxford, Bodleian Library, MS. Douce 114 (S. C. 21688)
 (Lives of saints, etc.) xv
- 7 (23) BERMONDSEY, Surrey. Cluniac priory and (1399) abbey of St Saviour [1]
 Oxford, Bodleian Library, MS. Rawlinson C.86 (S. C. 11951)
 (Poem on the Passion, *The Canterbury Tales*) xv
- 7 (24) BODMIN, Cornwall. Ben. (later Aug.) priory of St Petroc [1]
 London, British Library, MS. Harley 2399 (*Infantia Saluatoris*, etc.) xv
- 7 (25) BOLTON, Yorkshire. Aug. priory of B. V. M. [1]
 Princeton (NJ), Mr R. H. Taylor (Willam of Nassington) xv
- 7 (26) BORDLESLEY, Worcestershire. Cist. abbey of B. V. M. [1]
 London, British Library, MS. Additional 37787 (*Preces*, poems) xiv *ex.*

- 7 (27) CAMBUSKENNETH, Stirlingshire. Aug. abbey of B. V. M. [1]
 (?) Wemyss Castle, Capt. M. J. Erskine-Wemyss (*Wyntoun's Chronicle*) xv *in.*
- * 7 (28) CAMPSEY, Suffolk, Priory of B. V. M., of Aug. nuns [1]
 Cambridge, Corpus Christi College, MS. 268 (W. Hilton) xv
- * 7 (29) CANONSLEIGH, Devon. Abbey of B. V. M., St John the Evangelist,
 and St Etheldreda, of Aug. nuns [1]
 London, British Library, MS. Cotton Cleopatra C.vi (*Ancrene Riwele*) xiii *in.*
- 7 (30) CANTERBURY. Ben. abbey of St Augustine [1]
 (originally of St Peter and St Paul) [1]
 London, British Library, MS. Arundel 57 (*Ayenbite of Inwyt*) xiii-xiv
- 7 (31) CANTERBURY, Franciscan convent [1]
 Oxford, Bodleian Library, MS. Rawlinson poet. 137 (*S. C.* 14631)
 (*Piers Plowman*) xv *in.*
- 7 (32) DEREHAM, WEST, Norfolk. Prem. abbey of B. V. M. [1]
 (?) San Marino (CA), Huntington Library, MS. HM 55
 (Capgrave, *Life of St Norbert*) xv *med.*
- 7 (33) DORE, Herefordshire. Cist. abbey of B. V. M. [1]
 London, British Library, MS. Harley 218 (J. Lichtenberger, etc.) xiii *in.*-xv *ex.*
- 7 (34) DURHAM. Ben. cathedral priory of St Cuthbert [1]
 London, British Library, MS. Arundel 507 (*Theologica*) xiii-xiv
- 7 (35) FOUNTAINS, Yorkshire. Cist. abbey of B. V. M. [1]
 London, British Library, MS. Additional 24203 (*Prick of Conscience*) xiv *ex.*
- 7 (36) GLOUCESTER. Ben. abbey of St Peter [1]
 Oxford, Bodleian Library, MS. Laud misc. 706 (*S. C.* 809) (*Sermones*, etc.) xv
- * 7 (37) GODSTOW, Oxfordshire. Abbey of B. V. M. and St John the Baptist,
 of Ben. nuns [1]
 Oxford, Bodleian Library, MS. Rawlinson B.408 (*S. C.* 11755)
 (Cartulary, etc.) xv *med.*

- 7 (33) GUTHRIE. Angus. Collegiate church [1]
Edinburgh, National Library, MS. Adv. 18. 2. 8 (John of Ireland) xv *ex.*
- 7 (39) HALESOWEN, Worcestershire. Prem. abbey of B. V. M.
and St John the Evangelist [1]
(?) London, Society of Antiquaries, MS. 134 (J. Lydgate, etc.) xv
- 7 (40) HYDE, Hampshire. Ben. abbey of Holy Trinity, B. V. M., and St Peter [1]
London, British Library, MS. Stowe 944 (*Liber Vitae*) xi *in.*-xvi *in.*
- *7 (41) KINGTON ST MICHAEL, Wiltshire. Priory of B. V. M., of Ben. nuns [1]
Cambridge, University Library, MS. Dd. 8. 2 (436) (Obituary, etc.) xv *ex.*
- 7 (42) KIRKHAM, Yorkshire. Aug. priory of Holy Trinity or Christ Church [1]
London, British Library, MS. Harley 1770 (*Psalterium*) xiv
- 7 (43) KNARESBOROUGH, Yorkshire. Trinitarian convent [1]
(?) London, British Library, MS. Egerton 3143 (*Vita S. Roberti*, etc.) xv
- 7 (44) LAUNDE, Leicestershire. Aug. priory of St John the Baptist [1]
Oxford, Bodleian Library, MS. Douce 302 (*S. C.* 21876)
(Poems of J. Awdelay) xv
- 7 (45) LESSNESS or WESTWOOD, Kent. Aug. abbey of St Thomas the Martyr [1]
Cambridge, Corpus Christi College, MS. 387 (R. Rolle) xv
- 7 (46) LICHFIELD, Staffordshire. Cathedral church of B. V. M. and St Chad [1]
Oxford, Bodleian Library, MS. Rawlinson A.389 (*S. C.* 11272)
(R. Rolle, etc.) xv *in.*
- 7 (47) LICHFIELD. Franciscan convent [1]
(?) Tokyo, Prof. T. Takamiya, MS. 15 (*Mirror of Life*, etc.) xv
- 7 (48) LONDON. Guildhall [1]
London, Corporation of London, Record Office
(*Statuta Anglie 'Cartæ Antiquæ'*) xv *ex.*

- * 7 (49) LONDON. Priory of St John the Baptist, of Aug. canonesses in Holywell
(Shoreditch) [1]
Oxford, Bodleian Library, MS. Douce 372 (*S. C.* 21947) (*Lives of Saints*) xv
- 7 (50) MALVERN, GREAT, Worcestershire. Ben. priory of B. V. M. and St Michael [1]
Oxford, Bodleian Library, MS. Bodley 619 (*S. C.* 2151)
(Chaucer's *Astrolabe*) xv
- 7 (51) MUCHELNEY, Somerset. Ben. abbey of St Peter and St Paul [1]
Oxford, Bodleian Library, MS. Ashmole 189 (*S. C.* 6777-6780) (*Hymns, etc.*) xv
- 7 (52) NEWARK, Surrey. Aug. priory of B. V. M. and St Thomas the Martyr [1]
(?) Oxford, Bodleian Library, MS. Bodley 207 (*S. C.* 2021)
(*Mirror of Life of Christ*) xv
- 7 (53) NEWCASTLE-UPON-TYNE. Reclusory.
(Formerly owned by parish-churches and chapels) [1]
Oxford, Bodleian Library, MS. Rawlinson C.258 (*S. C.* 12119)
(New Testament) xv *in.*
- 7 (54) NEWHAM, Bedfordshire. Aug. Priory of St Paul [1]
Oxford, University College, MS. 181 (*Pilgrimage of the Soul*) xv *in.*
- 7 (55) NORWICH. Carmelite convent [1]
London, British Library, MS. Harley 211 (*Orationes, etc.*) xv *in.*
- 7 (56) NOTLEY, Buckinghamshire. Aug. abbey of B. V. M.
and St John the Baptist [1]
(?) London, Lambeth Palace, MS. 344 (J. Lydgate) xv
- * 7 (57) NUN COTON, Lincolnshire. Priory of B. V. M., of Cist. nuns [1]
London, British Library, MS. Harley 2409 (*Pistil of Love, etc.*) xv
- 7 (58) OXFORD, Canterbury College; cell of Christ Church, Canterbury [1]
(?) Cambridge, Trinity Collge, MS. B. 2. 18 (61)
(*Mirror of Life of Christ, etc.*) xiv-xv

- 7 69 PERSHORE, Worcestershire. Ben. abbey of St Edburga
(originally of B. V. M., St Peter, and St Paul) [1]
(?) Oxford, Bodleian Library, MS. Rawlinson C.81 (S. C. 11946)
(Medical tracts) xv
- 7 60 PETERBOROUGH, Northamptonshire. Ben. abbey of St Peter,
St Paul, and St Andrew [1]
Oxford, Bodleian Library, MS. Laud. misc. 636 (S. C. 1003)
(Peterborough Chronicle) xii *in.*
- 7 61 PIPEWELL, Northamptonshire. Cist. abbey of B. V. M. [1]
(?) Oxford, Bodleian Library, MS. Bodley Rolls 22 (S. C. 30445) (Hymns) xv
- 7 62 READING, Berkshire. Ben. abbey of B. V. M. [1]
London, British Library, MS. Harley 330 (W. Hilton, etc.) xv
- 7 63 RIEVAULX, Yorkshire. Cist. abbey of B. V. M. [1]
London, British Library, MS. Cotton Vespasian D.xiii
(*Abbey of Holy Ghost*, etc.) xv
- 7 64 ROCHESTER, Kent. Cathedral priory of St Andrew [1]
Rochester, Cathedral Library, A. 3. 5 (Laws, etc.) xii *in.*
- 7 65 SALSBURY. Cathedral church of B. V. M. [1]
Salisbury, Cathedral Library, MS. 113 (Chaucer, etc.) xv *in.*
- 7 66 SHREWSBURY. Franciscan convent [1]
(?) Oxford, Bodleian Library, MS. Bodley 771 (S. C. 2553)
(Clemens Lanthoniensis) xiv *ex.*
- 7 67 SOUTHWARK, Surrey. Aug. priory of St Mary Overy [1]
Oxford, Bodleian Library, MS. Bodley 423 (S. C. 2322)
(*Prick of Conscience*) xv
- 7 68 STAMFORD. Hospital of William Browne, of All Saints [1]
London, British Library, MS. Harley 2372 (Devotional tracts) xv
- *7 69 SWINE, Yorkshire. Priory of B. V. M., of Cist. nuns [1]
London, British Library, MS. Harley 2409 (*Pistil of Love*, etc.) xv

- 7 (70) WELBECK, Nottinghamshire. Prem. abbey of St James [1]
 Manchester, J. Rylands University Library, MS. Lat. 179 (*Sermones*) 1432
- 7 (71) WESTMINSTER, Middlesex. Ben. abbey of St Peter [1]
 London, Sion College, MS. Arc. L. 40. 2/E. 25
 (*Gospel of Nichodemus*, etc.) xiv-xv
- 7 (72) WIGMORE, Herefordshire. Aug. abbey of St James [1]
 Cambridge, Corpus Christi College, MS. 402 (*Ancrene Wisse*) xiii
- * 7 (73) WILTON, Wiltshire. Abbey of B. V. M. and St Edith, of Ben. nuns [1]
 (?) London, British Library, MS. Cotton Faustina B.iii
 (Life of St Edith, etc.) xv *in.*
- 7 (74) WINCHESTER, Hampshire. Ben. cathedral priory of St Peter,
 St Paul, and St Swithin [1]
 London, British Library, MS. Additional 60577 (*Miscellanea*) xv *ex.-xvi med.*
- * 7 (75) WINTNEY, Hampshire. Priory of B. V. M., of Cist. nuns [1]
 London, British Library, MS. Cotton Claudius D. iii (*Martyrologium*, etc.) xiii
- 7 (76) YORK. Franciscan convent [1]
 Arundel Castle, Duke of Norfolk, *s. n.* (*Prick of Conscience*) xiv *ex.*
- 7 (77) YORK. Convent of Austin friars [1]
 (?) Cambridge, University Library, MS. Additional 2823
 (W. de Nassington) xv